



MEMO

受動喫煙で発症する可能性のある疾患

低出生体重児、子宮内発育遅延、乳児突然死症候群、知能低下、注意欠陥多動障害、気管支喘息、気管支炎、副鼻腔炎、各種のがん (肺がん、副鼻腔がん他)、狭心症

【愛媛県内成人男女の喫煙率推移】

年代	女性	男性
20代女性	9.7%	46.5%
2004年	17.5%	4.2%
2011年	5.3%	32.5%

(愛媛県民健康調査より)

【参考ホームページ】
「愛媛県小児科医学会」で検索し、
~こどもとタバコ~をご参照ください。
※携帯サイトは下記参照

中野省三 先生
なかの・しょうぞう

石丸小児科院長 (松山市三番町)
一般小児科、発達神経外来、健康診断、予防接種などを担当
社団法人日本小児科学会認定小児科専門医
日本小児神経学会認定小児神経専門医
京都大学医学部卒業 医学博士

成した後の「たばこを止めたく、
れた」という周囲の嬉しそうなき
表情は、間違いなくご本人にも
家族にも幸せをもたらせます
し、何よりも禁煙は家族への愛
の証なのです。

親の喫煙と子どもへの影響

～禁煙は家族への愛～

おしん先生

親 (同居する大人) が喫煙していると子どもにはどのような影響がありますか?

独身中いたばこを吸っていた方もおられるかと思いますが、二人の共同生活を始めるに当たっては是非とも禁煙に取り組んで頂きたいと思えます。たばこを吸う本人だけでなく、配偶者や特にお子さんに悪影響があるというお話を。

実は妊娠中に親がたばこを吸うと、生まれてから吸うので、は少し意味が異なります。妊娠2、3カ月頃)既に赤ちゃんは数センチの大きさに育っていて、中枢神経の基本的な構造が作られていきます。専門的になりますが神経管という脳脊髄の端から新しい神経細胞がどんどん作られて大脳皮質へ並べられている時期なのです。この時期に母親が喫煙するとニコチンや一酸化炭素その他の有害物質が赤ちゃんの神経細胞の発達に悪影響を及ぼすので、この時期に母親が喫煙するとニコチンや一酸化炭素などの有害物質が赤ちゃんの脳はハリアー機能が弱いのでたばこの化学物質で湿疹やかゆ

成した後の「たばこを止めたく、
れた」という周囲の嬉しそうなき
表情は、間違いなくご本人にも
家族にも幸せをもたらせます
し、何よりも禁煙は家族への愛
の証なのです。